

メガイアワビ資源再生のための 初期生態の解明に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成 26~28 年度)
担当：水産技術研究所 伊豆分場 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

伊豆半島沿岸の磯根漁業の重要対象種であるアワビの漁獲量は平成4年以前の平均 62 トンに対し、近年では 30 トン未満に低迷しており、資源回復対策が望まれています。

本研究ではメガイアワビの稚貝期の生態を明らかにし、それを基に、天然稚仔の加入量の増加、生残率の向上を目指す稚貝場造成方法指針を策定し、漁獲増加を目指します。

【研究成果】

- ・12月中旬から1月中旬にメガイアワビの初期稚貝の着底を確認し、カジメ群落内での初期稚貝の着底、静岡県漁業調整規則の産卵保護期間後の産卵が明らかになりました。
- ・メガイアワビ稚貝場の造成条件として、水深4~10m、大型海藻群落（カジメが望ましい）がある場所、石の多い場所、石にはサンゴモが必要、トコブシのいるような場所が挙げられました。これらは、種苗放流場所の条件も満たしています。

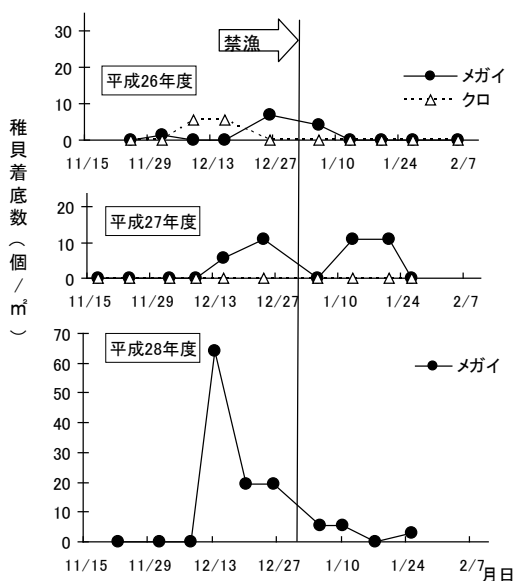


図1 アワビ類初期稚貝の着底数の推移

【研究成果の普及方法】

- ・静岡県漁業調整規則の禁漁期間の延長など産卵保護策を検討します。
- ・漁獲量 30 トンレベルの資源回復を目指し、稚貝場造成指針周知や維持管理の研修会を実施します。（作成 平成 29 年 3 月）

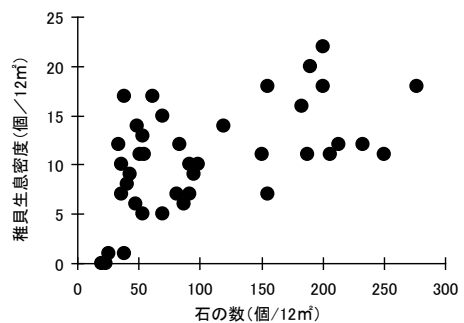
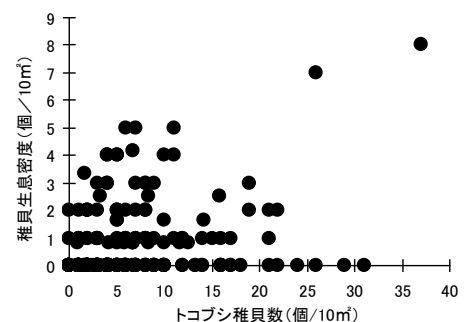
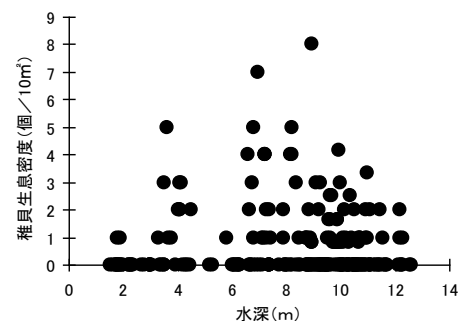
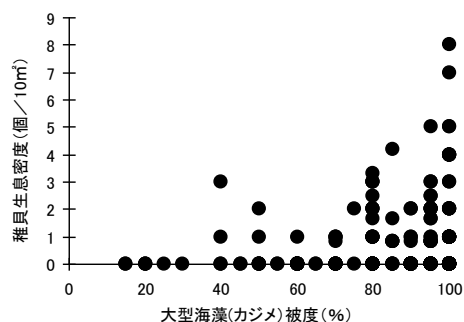


図2 稚貝の生息密度と環境要因との関係